

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」大沼校		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日	～	2025年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53 (回答者数)	48
○従業者評価実施期間	2025年 12月 20日	～	2025年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）を作成している。	ひとりひとりに合わせたオーダーメイドの個別療育を行い、個別支援計画に沿った支援を行うことで、共通の理解を図り、利用者さんにも達成感を体験してもらえるように工夫している。	個別支援計画が固定化されないように、利用者さんの最善の利益のために「今必要なことはなにか」をしっかりと考えながら、個別支援計画を作成し、職員としっかりと共有して支援を行っていく。
2	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明している。	利用に当たって不安がないように、また支援の透明性や計画性を保護者に伝えていくことができるように、しっかりと個別支援計画を説明を行っている。	より分かりやすく、より利用者のニーズと現状に合った課題を反映されている個別支援計画を作成するようにしていく。
3	職員の配置数は適切であると思いますか。	利用者の人数に応じた基本人員を配置した運営を行っている。また、加配人員も配置するようにして、質の高い療育支援を提供できるように心掛けている。	引き続き、安心安全に利用していただけるようにシフトの管理と職員数の充実を図りながら事業運営を心掛けていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされていないこと。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていないこと。	個別の支援を望んでおり、保護者同士の交流を望まない保護者もいるため、開催方法が見つけられていない。利用者が契約者数で50名程いるため、保護者同士で交流するための会場を設営することが難しい。	保護者会の開催方法を検討していき、保護者同士、きょうだい同士が交流できる機会を提供できるように、会場等も踏まえて協議していく。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がないこと。	個別の支援を望んでおり、児童クラブ等との交流を望まない保護者もいるため、開催方法がむずかしい。小学校などの学校でうまく集団参加できるように個別の支援で課題を解決する基礎を身につけようと考えている。	交流を望んでいる利用者さんを把握し、人数や学年に応じた交流会が開催できるように検討していく。
3	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていないと利用者保護者が思っていること。	保護者や利用者が参加した避難訓練を全利用者に実施できていないため、実施できていないと保護者が認識されている。	祝日や長期休暇などを活用し、支援時間とは別に避難訓練を実施することで利用者にも参加していただける形式での実施を行っていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」大沼校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 53

回収数 48

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	43	5	0	0	子供の活動は十分な広さだと思うのですが、通路や先生方のお仕事スペース、物の置き場がなくて大変そうだと思う。十分とは言えないが満足しています。	今ある空間をうまく活用しながら、職員も快適に業務できるように、安全も確保しながら支援できるように対応して参ります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	47	1	0	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	43	5	0	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	46	2	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	45	2	0	1	まだ回数的にそこまでわからないため	お子さんの特性を踏まえた支援を提供していきたいように今後も研鑽して参ります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	44	1	0	3	都度要望をお伝えするが専門家として子供に必要な適切な支援を組混んで欲しいと思っている	お子さんの特性を踏まえて、個々に合わせたオーダーメイドの個別支援を今後も提供して参ります。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	48	0	0	0		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	46	1	0	1		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	46	1	0	1	まだ回数が多く無いため回答しにくい	個別支援計画に沿った活動を提供させていただいております。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	41	4	0	3	まだ回答できるほど通えていない	お子さんの状況に応じて臨機応変にプログラムを変更したり対応して参ります。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	12	5	14	17	他との交流は特に望んでいません。必要ないと思う現状のままで良いと思います。	必要に応じて、機会提供の検討などを実施して参ります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	46	1	0	1		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	47	1	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	20	8	3	17		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	46	1	1	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	40	4	3	1	送迎していないため最近では面談などしていない	必要に応じて、面談を実施させていただきますので、お気軽にお申し付けください。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	45	2	0	1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	5	12	23	18番の質問の様な事は特に望んでいません。必要ないと思う個別支援なので保護者会は不要かと思います。	保護者会の要望などがあれば、必要に応じて、実施させていただきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	44	2	0	2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	44	3	1	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	26	2	3	17		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	38	3	0	7		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	26	4	0	18	訓練の実施がされているかは、わからない。	防災訓練は月に1度定期的に実施しています。マニュアルは教室内に配架されていますのでご自由にご覧下さい。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	5	2	23	防災DVDは見ましたが、必要な訓練が行われているかは、わからない。	防災訓練は月に1度定期的に実施しています。利用時間の兼ね合いとバランスを取りながら今後も実施いたします。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	34	3	0	11		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	32	5	0	11		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	46	2	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	39	7	0	2		
	29	事業所の支援に満足していますか。	45	3	0	0	・これからもよろしく願いいたします。 ・いつも丁寧にフィードバックしていただき満足しています。 ・いつも親の相談にも親身に対応頂きありがとうございます。息子もきりが大好きで、先生に勉強以外でも色々話ができる、聞いてもらえて心の拠り所とさせてもらってます！引き続きよろしくお願い致します。 ・いつも楽しく、そして状況によって対応していただけて親子共々安心して通わせていただいています。今後どうぞよろしくお願い致します。	今後ご利用者さんや保護者の皆様に満足していただけるような支援を提供できるよう職員一同、質の向上と心の拠り所となるような関係性を構築して参ります。 引き続ききりりの療育支援・事業活動にご理解とご協力の程よろしくお願い致します。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」大沼校		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーテーションにより個々の活動空間を確保している。	入れ替えのタイミングで待機するスペースが足りない時がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		常勤6名を1日3名以上は配置している。加配職員の配置も行っている。	運動などの体を動かす空間を確保することが難しい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		絵や文字を用い、分かりやすく伝えるように心掛けている。教室内には段差はなく、バリアフリーになっている。	玄関先のところに段差があり、ベビーカーなどで入室の際はサポートが必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃を日々行い、清潔な環境を提供できるように心がけている。	作品など工作作業の後は少し床にゴミが落ちていたりして、片付ける時間的な余裕がない。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		パーテーションにより個々の活動空間を確保している。個別の療育のため、常に使用できる環境にある。	個別療育のため、時間の制約が大きい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		半年に一度、業務改善の振り返りを行い、自己の目標の設定と振り返りを実施している。	今後も継続して、定期的な振り返りと目標設定ができる職場環境を整えていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所ミーティングを実施し、保護者からの意見を職員間で共有するようにしている。	シフト休みの関係で、その場で参加できない職員が生じてしまう。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な個別面談を実施しており、職員からの意見や相談ができる環境を整えている。	半年に一度が基本ベースのため、頻度が少ない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者ではないけれど、上長巡回訪問で定期的に教室の視察、業務改善を行っている。	第三者評価を行うか、本社とも協議しながら進めていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		入社時の研修や、月に1度の発達支援研究所によるWeb研修などが実施されている。	午前中に支援があると受けられない時がある。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○	プログラムを掲示して活動をしている。	HPへの公表はまだできていない。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		個々に定期的にアセスメントを実施したうえで個別支援計画を作成している。	こどものニーズが十分に反映しにくいところがある。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		作成の際は、モニタリング時に職員間で課題の整理を行い、作成後にサービス担当者会議で共通の理解をするようにしている。	子どもの最善の利益と保護者の要望を折り合いをつけるのが難しい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画に沿った内容で支援を行っている。	今後も継続して、支援計画に沿った内容を実施し、支援の質の確保を行っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		法人内で共通のアセスメントシートを利用している。	今後も継続して、しっかりとアセスメントを行っていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域を踏まえた「本人支援」に加えて、本児と家族の関係づくりをサポートする「家族支援」と、関係機関等との連携や協力をする「移行支援」などを明記し、それぞれに支援目標、支援内容を支援計画に設定している。	今後も継続して、必要な項目を適切に設定した支援計画を作成していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当が主として活動プログラムを作成しているが、担当のみで決めるのではなく、支援者同士で話し合いながら作成している。	今後も話し合いながら支援者同士で決定していく。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		その日の利用者さんの状況に合わせて適宜プログラムを変更したり、固定化されないように工夫している。	定着するまでに時間がかかったりすることがあり、固定化されたプログラムが組み込まれてしまう。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。		○	個別から集団へをひとつの考え方として、個別に重点を置き、集団で出来ないことを個別でサポートしている。	集団療育の提供が教室環境として難しい。集団療育を行っているところと連携を十分に取ることが難しい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		社内ツールを活用し、支援の分担やその日の業務の確認を行っている。	開所時間に支援がある場合に、支援前にミーティングを行うことができない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		社内ツールを活用し、その日の支援振り返りや課題点の共有などをを行っている。	閉所時間ギリギリまで支援がある場合に、支援後にミーティングを行うことができない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援後には必ず記録を作成し、法人内でも3営業以内に書き終えるようにルール化している。	今後も支援後に必ず記録を作成し、遅れや抜けがないようにしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		指導員と話し合いながら、6か月ごとにモニタリングを実施し、支援計画の見直しを行っている。	今後も定期的なモニタリング実施と計画改善を行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		その子のニーズに合わせて、創作活動と自立支援と日常生活の充実のための活動を中心に活動している。	地域との交流が十分に行えていない。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動の際にどちらがやりたいかを選んでもらうなど自己決定する機会を支援中に提供するようにしている。	活動に拒否があった際に、うまく調整ができないことがある。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が必ず参加するようにしている。また必要な場合には、支援者も参加できるように調整している。	職員の配置の関係で、支援者が参画したくてもできないことがある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者の要望に応じて、関係機関との連携を行っている。	今後も必要に応じて、関係機関との連携を行っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		○	関係機関連携の際には、しっかりと連絡調整を行っている。	送迎がないため、学校との情報共有や連絡調整があまりない。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		多機能型のため、児童発達支援から継続して利用している方が多い。	放デイから利用を開始された場合に、児童発達支援の情報や幼児期の情報が保護者からのみになってしまう。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	成人後に福祉サービス事業所に移行した利用者がいない。	福祉サービス事業所に移行する方が出た場合には、適切な情報共有や連携を実施していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		支援センターから研修の案内があった際には、参加するか職員間で確認をしている。	支援センターに相談することより、法人内での助言を受けることが多い。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	個別の療育のため、他児との交流を望んでいない利用者さんがいる。	1時間の個別療育のため、教室外へ出て他の地域のこどもと交流する機会を提供することが難しい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	南区の民間の放課後等デイサービス協議会に参加している。	市の協議会が参加ができていない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援後に保護者と話をする時間を必ず設けている。LINEなども活用して、いつでも相談できるようにしている。	支援が伸びたりすると直接話が何えないことがある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		支援後の保護者との話し合いの際に、助言等のペアレントトレーニングを行っている。研修会などは市からの保護者向けのものを案内している。	事業所主催でペアレントトレーニングの研修会などは実施することができていない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に重要事項説明書を通して、活動内容や利用者負担について細かく説明をしている。	今後も丁寧な説明を心掛け、保護者から不信に思われないように努めていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者との面談を実施し、こどもの最善の利益を確保できるように、計画には必ず説明後に同意の署名を頂いている。	今後も丁寧な計画の作成と説明を行っていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		保護者との面談を実施し、こどもの最善の利益を確保できるように、計画には必ず説明後に同意の署名を頂いている。	今後も丁寧な計画の作成と説明を行っていく。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		適宜、必要に応じて面談を実施している。保護者からの申し出があった際には、迅速な対応を心掛けている。	定期的な実施ができず、保護者からの申し出があつてから実施する受け身な状態となっている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	保護者会はできていないが、毎回の支援後に保護者からの話を聞く機会を設けている。	保護者会を実施、開催することができていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情があった際の対応がマニュアル化されている。また、迅速な対応を心掛けている。	今後もマニュアルを遵守し、苦情があった際に適切な対応を心掛ける。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		LINEを活用して、保護者との連絡を取りやすい環境を整備している。ブログを公開して、活動内容が見れるようにしている。	ブログの更新が不定期なため、定期的な情報発信ができていない。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きの書庫で個人情報に関わるものは管理している。	職員のスペースがオープンスペースのため、個人情報の扱いで課題がある。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		言葉での発信が難しい利用者には、絵カードに指差しをしてもらうなど工夫している。	絵カードでは選択肢になるため、0から伝えたい内容を把握する手段がない。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	体験見学はいつでも受付可能なため、気軽に見学してほしい。	事業所行事などが開催できず、地域住民等を招待することはできていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		毎月、避難訓練を実施している。マニュアルもしっかりと策定している。	利用者さんを含めた訓練の実施がなかなかできていないため実施方法等を検討し、実施していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月、避難訓練を実施している。BCPの策定も法人本部主導で実施している。	今後も事業を継続できるように、BCPに沿った事業所運営を心掛けていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		初回の面談時に把握するようにしている。また、年に1度、基本情報を更新し、把握するようにしている。	現在、てんかん児はいないけれど、今後、利用となった場合は適切に対応していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		初回の面談時に把握するようにしている。また、年に1度、基本情報を更新し、把握するようにしている。	食事の提供はないけれど、アレルギーには気を付けながら、利用の際には適切に対応していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、支援を行っている。ヒヤリハットを共有し、事故が起きないように気をつけている。	今後もヒヤリハットが生じたときは対応をしっかりと検討して安全に留意していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画を作成し、こどもの安全を確保したうえで支援を行っている。流血などのけがをした際には、保護者に連絡を必ずしている。	今後も、適切に対応していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		安全計画を作成し、支援を行っている。ヒヤリハットを共有し、事故が起きないように気をつけている。	今後もヒヤリハットが生じたときは対応をしっかりと検討して安全に留意していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待委員会主催の研修を職員全員受講するようにしている。	今後も継続していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約の際に、身体拘束についての規程を説明し、個別支援計画に記載をして、了承を得ている。	今後も、身体拘束ゼロに向けて、適切な運営をしていく。